



地域における障害者スポーツ普及促進事業の進捗状況

平成 28 年 3 月 10 日

神奈川県

添付資料 「かながわパラスポーツ推進宣言」

I 「かながわパラスポーツ」の普及推進について

神奈川県では、平成 27 年 1 月にかながわパラスポーツ推進宣言を発表し、**すべての人が年齢や障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが自身の運動機能を活かしてスポーツを“する”、“観る”、“支える”喜びや楽しみを実感できるための取組み**を推進している。

また、現在、「かながわパラスポーツ」の普及推進に向けた実効性のあるプログラムの作成に向け、モデルプランを作成中である（平成 28 年 3 月完成予定）。

～ パラリンピアンから学ぼう！～ 「かながわパラスポーツ推進宣言」

世界の舞台で活躍するパラリンピアンは、残された運動機能を限界まで鍛えて、最大限の力を発揮できるよう創意工夫し、動く部分をもっと動かせるように努力しています。

誰も、高齢者になれば、どこかの身体機能が衰えていきますので、残された機能を使ってスポーツをしているパラリンピアンから学ぶノウハウはたくさんあります。

みんなでパラリンピアンから学び、年齢、障がいなどによって異なる一人ひとりの運動機能を活かして、すべての人がスポーツをすること、それを観ること、支えることは、とても大切なことです。

それは心身をより健康な状態に近づけ、「未病を治す」ことにもつながります。

そこで、神奈川県ではパラスポーツを「障がいのある人がするスポーツ」という考え方から一歩進め、「すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えること＝『かながわパラスポーツ』」と捉え、3つの取組を推進します。

1 パラリンピアンから学びます

パラリンピアンが自身の運動機能の限界に挑む姿から、体を動かすノウハウや創意工夫、諦めない心、できるようになる喜びを学びます。

2 「かながわパラスポーツ」を実践します

年齢、障がいなどを越えてスポーツをする喜びや、仲間ができる楽しみを実感できるよう「かながわパラスポーツ」を実践します。

3 パラリンピック競技大会を盛り上げます

「かながわパラスポーツ」を実践することで、2020 年に東京で開催されるパラリンピック競技大会を神奈川から盛り上げていきます。

2015年1月6日

神奈川県知事 **黒岩 祐治**

II 神奈川県における「かながわパラスポーツ」をめぐる現状と課題

1 「かながわパラスポーツ」のこれまでの主な取組

神奈川県では、「かながわパラスポーツ」を推進するため、平成27年度は、重点的に周知に取り組むこととし、県内3地域（平成27年5月30日（土）：海老名市、9月20日（日）：小田原市、11月21日（土）：横浜市）で、パラリンピアン等による講演や、パラリンピック競技種目等の体験等を実施する「かながわパラスポーツフェスタ」を開催した。また、県庁本庁舎公開などのイベント時に体験会等を実施している。

平成27年9月には、「かながわパラスポーツ」の普及に向け、スポーツ関連の有識者、団体、企業、障がい者福祉関連の団体、及び行政（神奈川県、市町村）で構成される「かながわパラスポーツ普及推進検討会」を設置し、平成28年3月までに3回にわたりモデルプランの検討を重ねている。

(1) かながわパラスポーツフェスタ 2015

第1回：5月30日（土）

- ・会場：海老名運動公園
- ・パラリンピアンによる講演会
- ・知事、パラリンピアンらによるトークショー
- ・パラスポーツ体験会（車椅子バスケットボール等）



第2回：9月20日（日）

- ・会場：小田原アリーナ
- ・共催：小田原市
- ・パラリンピアンによる講演会
- ・パラスポーツ体験会（ゴールボール等）



第3回：11月21日（土）

- ・会場：横浜市立大学 金沢八景キャンパス
- ・共催：横浜市ほか
- ・著名人による講演会
- ・パラリンピアンによる講演会
- ・パラスポーツ体験会（ボッチャ等）



(2) 「かながわパラスポーツ」体験会

以下のイベント時に、県職員によるパラスポーツのミニ体験会を実施した。

県庁本庁舎公開、県民スポーツ週間、おだわらスポーツ&レクリエーションフェスティバル
横浜マラソン EXPO 等

(3) かながわパラスポーツ普及推進検討会

第1回：平成27年9月15日

- ・かながわパラスポーツ普及に向けた取組等の説明
- ・障がい者スポーツ実施状況調査の検討

第2回：平成28年1月29日

- ・障がい者スポーツ実施状況調査の結果報告等

第3回：平成28年3月14日（予定）

- ・かながわパラスポーツ普及に向けたモデルプラン報告等

II 神奈川県における「かながわパラスポーツ」をめぐる現状と課題

2 平成 27 年度障がい者スポーツ等の実施状況調査の実施

今後の「かながわパラスポーツ」の普及推進に向けた実効性のあるプログラムの作成に向け、県内の障がい者スポーツの実施状況や取組みの現状、課題等について把握するため、「平成 27 年度地域における障がい者スポーツの実施状況等調査」(平成 27 年 12 月～平成 28 年 3 月)を実施し、現在、調査結果を分析中である。

(1) 調査対象

ア 書面調査

市町村、学校、スポーツ施設、総合型スポーツクラブ、障がい者団体、障害者支援施設、スポーツ・レクリエーション団体、障がい者スポーツサークル、企業等における障がい者スポーツの実施状況等を書面で調査(約 1,400 箇所)。

イ 現地調査

「ア 書面調査」を実施した施設・団体のうち、特徴的な取組み又は障がい者スポーツの普及に効果的と考えられる取組みを行っている施設・団体等約 40 箇所にヒアリング調査を実施。

(2) 調査期間

ア 書面調査 平成 27 年 12 月 9 日(水)～平成 28 年 1 月 13 日(水)

イ 現地調査 平成 28 年 2 月 1 日(月)～平成 28 年 3 月 4 日(金)

3 調査から見てきた「かながわパラスポーツ」をめぐる現状と課題

○ 書面調査

・「かながわパラスポーツ」に関する情報発信・普及啓発の不足

「かながわパラスポーツ」普及等における課題として、「情報発信・PR・広報の不足」が多くあげている。特に、実際に活動を行っている「障がい者スポーツサークル」の多くが障がい者スポーツの魅力が伝わっていないことを課題としてあげている。

・「かながわパラスポーツ」を体験する機会の不足

市町村における障がい者スポーツのイベント等の実施状況は約 7 割。また、他の分類においても、その多くが、障がい者スポーツ等を未実施だった。

・「かながわパラスポーツ」への提案

全調査対象に、「かながわパラスポーツ」の事業アイデア(自由回答)を質問した。

最も多い回答が「障がいのある人とない人が一緒になってスポーツを実施するイベント」。ついで「認知度を高める広報活動」、「障がいのない方への障がい者スポーツイベント」、「障がい者スポーツ施設の設置」等の意見があがっている。

○ 現地調査

現在、調査結果を精査中である。

4 「かながわパラスポーツ」モデルプランの策定に向けて

調査結果、また、かながわパラスポーツ普及推進検討会委員の意見をふまえたモデルプランを策定し、「かながわパラスポーツ」の推進を図っていく。

～ パラリンピアンから学ぼう！ ～ 「かながわパラスポーツ推進宣言」

世界の舞台で活躍するパラリンピアンは、残された運動機能を限界まで鍛えて、最大限の力を発揮できるよう創意工夫し、動く部分をもっと動かせるように努力しています。

誰しも、高齢者になれば、どこかの身体機能が衰えていきますので、残された機能を使ってスポーツをしているパラリンピアンから学ぶノウハウはたくさんあります。

みんなでパラリンピアンから学び、年齢、障がいなどによって異なる一人ひとりの運動機能を活かして、すべての人がスポーツをすること、それを観ること、支えることは、とても大切なことです。

それは心身をより健康な状態に近づけ、「未病を治す」ことにもつながります。

そこで、神奈川県ではパラスポーツを「障がいのある人がするスポーツ」という考え方から一歩進め、「すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えること＝『かながわパラスポーツ』」と捉え、3つの取組を推進します。

1 パラリンピアンから学びます

パラリンピアンが自身の運動機能の限界に挑む姿から、体を動かすノウハウや創意工夫、諦めない心、できるようになる喜びを学びます。

2 「かながわパラスポーツ」を実践します

年齢、障がいなどを越えてスポーツをする喜びや、仲間ができる楽しみを実感できるよう「かながわパラスポーツ」を実践します。

3 パラリンピック競技大会を盛り上げます

「かながわパラスポーツ」を実践することで、2020年に東京で開催されるパラリンピック競技大会を神奈川から盛り上げていきます。

2015年1月6日

神奈川県知事 黒岩 祐治

「かながわパラスポーツ」の展開（イメージ）

